

第23回

## 調について ～いろいろな調べを知る～



講師  
青島 広志

学習のねらい

長調は明るく楽しい、短調は暗く悲しい印象を与えますが、その音階が何の音で始まるか（主音）によって、いくつもの“調”が成立し、それぞれが異なった雰囲気を持ちます。これは、各主音の特色と、そこに#やbが付いた音がどのくらい含まれているかによるものですが、作曲家たちが長い間伝えてきた歴史的な感覚も影響します。一般的に、#やbが少なく、ピアノの白鍵にあたる音が多いほど単純・明快で、多くなるほど複雑な気分を表せるようになります。

### 長調の代表的な作品を聴く

番組では、ベートーヴェン作曲：交響曲第5番ハ短調 op.67「運命」の第4楽章を取り上げます。これは、ハ長調で書かれ、「運命への戦いに勝利した」と解釈される部分です。喜ばしく、明るいのは長調（長音階を用いた曲）の一般的な特徴ですが、同時に感じられる安定・安心感はハ長調ならではのものです。

同じハ長調のブラームス作曲：交響曲第1番ハ短調 op.68の第4楽章も静かに始まりますが、同様にどっしりした感じをもっています（譜例1）。

譜例1 代表的な長調（♩の後に付けられた#やbは調号と呼ばれ、その段の同名の音全てに付く）

ハ長調 例：ベートーヴェン 交響曲「運命」第1楽章



ト長調 例：モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第4楽章



ヘ長調 例：ベートーヴェン 交響曲「田園」第1楽章



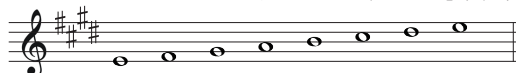
ニ長調 例：ヘンデル「メサイア」ハレルヤ・コーラス



イ長調 例：マリ「金婚式」老夫婦の登場



ホ長調 例：スメタナ「モルダウ」終結部



## 短調の代表的な作品を聴く

短調は、一般的に暗いイメージを与えます。例えば、有名なベートーヴェンの交響曲第5番ハ短調 op.67「運命」の第1楽章は、ハ短調で書かれています。これは、短調の特徴はもちろんですが、ハ長調と同様に、主音のドの特徴である安定感や力強さもあわせ持ち、いかめしさを余すところなく表現しています。

このように、それぞれの調は、長調と短調の区別だけでなく、主音（その調の音階の始めの音）の個性が反映されて、独自の雰囲気をもちます。それぞれの調が、どのような気分を表すのかを、さらに詳しく聴いてゆきましょう（譜例2）。

譜例2 代表的な短調（音符の横に付けられた#やbは、和声的・旋律的短音階の上行形に付く）

イ短調 例：マリ「金婚式」冒頭

ホ短調 例：スメタナ交響詩「わが祖国」「モルダウ」冒頭

二短調 例：シューベルト 交響曲「未完成」第1楽章

## 始まる音によって音階の気分が変わることに気づく

音階の音に#やbが付く調について順に、みていきましょう。

まず、#が1つ付くト長調の例です。モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第4楽章は、若々しい、はつらつさを感じさせます。

bが1つ付くヘ長調の例は、ベートーヴェン作曲交響曲第6番ヘ長調 op.68「田園」第1楽章で、ここはヘ長調で優しく穏やかです。

次に、#が2つの二長調の例です。ヘンデル作曲「メサイア」からハレルヤコーラスの部分で、これは神をたたえる歌でもあり、光あふれる朝の気分です。作曲家が作品を書くのに、なぜその調を選んだのか、その理由についても考えてみましょう。

\* \* \*

次に短調の例です。

ミを主音とするホ短調の代表的な例は、スメタナ作曲の交響詩「わが祖国」「モルダウ」ですが、これは内に秘めた暗い情感が感じられます。民族の歴史を暗示しているからでしょう。

ラを主音とするイ短調は、ほとんど白鍵で弾けることもあって、素朴な悲しみを表現するこ

とができますが、ここではマリ作曲「金婚式」を取り上げます。

「モルダウ」も「金婚式」も途中で、短調から同じ音を主音とする長調に変わりますが、このように、曲中で調が変化することを転調といいます。

また、シの音を主音とする口短調にあまり作品の例がないのは、この音の持つ特殊な性質のためだと考えられます。ここではシューベルト作曲：交響曲第7番口短調「未完成」の第1楽章を取り上げます。それぞれの音や調の感じを、みなさんの感性で感じ取ってみてください。

